「学生」[1] は対面式とオンライン方式のいずれを好むのか
－英語SA（Student Assistants）に対する意識調査と英語学習・留学個別相談の利用者層の分析から－

南　部　恵　美・石　川　綾　美・江　崎　哲　也

要　旨

山梨大学では、授業のみならず、学生に対する英語学習支援もオンライン方式に切り替えている。新型コロナウィルス感染症の影響が拡大してからこれまで、高等教育機関でオンライン授業と対面授業の満足度などについての調査は行われているが、英語学習支援に関する調査・研究は見当たらない。そこで本研究では、英語学習に関するサービスを提供する「学生」（Student Assistants）に対する意識調査を行い、さらにコロナ禍前後に英語学習・留学個別相談を利用した「学生」の層を分析した。その結果、英語学習に関するサービスを提供する「学生」（Student Assistants）はオンライン方式を好む学生が多いことが確認され、英語学習・留学個別相談のオンライン方式への切り替えによって、利用した「学生」の層に変化があったことが明らかになった。

キーワード：対面式、オンライン方式、英会話、英語学習支援、Student Assistant、英語学習・留学アドバイザー

１．はじめに

山梨大学国際交流センターでは、図１に示すように、2014年度後期からグローバル人材育成に向けての取り組みの一つとして、G-フィロス（グローバル共創学習室）を管理・運営している。

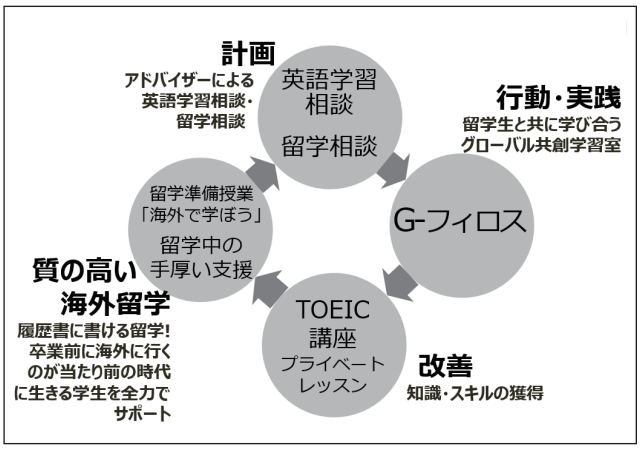

図１　山梨大学国際交流センターが提供する英語学習環境

このG-フィロス内には英語学習・留学アドバイザー２名と、本学に在籍する留学生のうち英語が堪能な学生（常時10～15名程度）を「英語SA（Student Assistants。以下「英語SA」）」として配置しており、G-フィロスが日本語を母語とする本学学生が英会話の練習をする場、あるいは英語による研究発表のサポートなどが受けられる場（昼休みに行うものを「English Café」、16時30分～19時ごろまで行うものを「English Support」）と呼んでいる。）として機能している。また、英語学習・留学アドバイザー２名は「英語学習・留学個別相談」や「プライベート・英語レッスン」を行っている。2019年２月までは、全ての英語学習関連のサービスを対面式で実施していたが、コロナ禍により急遽オンライン方式（同時双方向型）[2] で対応し始めた。これにより「English Café」、「English Support」を担当する英語SAにも少しずつ変化が見え始めた。また、英語学習・留学個別相談やプライベート・レッスンを利用する層に変化が出始めた。新型コロナウィルス感染症の影響が拡大してから、オンライン授業と対面授業の学生の満足度について調査・分析した立教大学経営学部データアナリティクスラボ（2020）や、立正大学（2020）などがあるが、英語学習支援の中でも特に英会話セッションを提供する側の調査や、英語学習・留学個別相談の利用者層に関する研究は管見の限り見当たらない。そこで本稿では、意識調査をすることによって、英会話セッションを提供する側の英語SAが対面式・オンライン方式についてどのような考えを持っているのか明らかにする。また、コロナ禍前後に英語学習・留学個別相談を受けた学生がどのような背景・目的を持っているかを明らかにし、オンライン方式をどのように活用すべきかを検討する。

２．英語SA（Student Assistants）に対する意識調査

前節で述べたように、本稿では対面式・オンライン方式で行われた「English Café」、「English Support」を英語SAがどのように捉えていたかを明らかにするため、意識調査を行い、分析を行った。

[1] 本稿ではサービスを提供する「学生」（Student Assistant）と、サービスを受ける「学生」の２つの意味を持つことから鍵括弧をつけた。
[2] 本稿では、以下「オンライン方式（同時双方向型）」を「オンライン方式」とする。

2．1　English Café とEnglish Support－対面式からオンライン方式へ－

表１　2019 年度以前の English Café とEnglish Support（対面式）

	取り組み名	１回あたり開催時間	頻度/週	１回あたりの配置人数	１セッションあたりの参加人数の制限
①	イングリッシュ・カフェ（２会場で実施。）	40 分	8〜10	アドバイザー１+SA2〜3/本学英語教員１（週３回）	なし
②	イングリッシュ・サポート（１会場で実施。）	60〜90 分	10〜12	アドバイザー１+SA2	

表２　2020 年度の English Café とEnglish Support（オンライン方式）

	取り組み名	１回あたり開催時間	頻度/週	１回あたりの配置人数	１セッションあたりの参加人数の制限
①	イングリッシュ・カフェ（２つの Zoom ミーティングで実施。）	40 分	10	アドバイザー１+SA１ ＋ アドバイザー１+SA１	あり（５名まで）
②	イングリッシュ・サポート（１〜２つの Zoom ミーティングで実施。）	40 分	23		

＊下線は変更のあった項目

2019 年度以前、2020 年度ともに、イングリッシュ・カフェ、イングリッシュ・サポートでは、英語で楽しく話すことを目的としたイングリッシュ・カフェを毎日昼休みに開催した。また、夕方には国際学会の発表準備から、海外留学や旅行の前の英会話のブラッシュアップまで、さまざまな英語のサポートを行った。2019 年度以前は 20〜50 平米の部屋でいくつかのテーブルに分かれて行っていたが、2020 年度は Zoom ミーティングで各セッションに英語 SA と英語学習・留学アドバイザー（日本語母語話者）の２人がファシリテートし、参加者を５名までと限定して行った。また、Zoom ミーティングの時間を１回 40 分としたため、2020 年度の１週当たりのセッション数は相対的に増えた。

2．2　調査対象者

英語 SA のうち、対面式とオンライン方式の両方式で English Café と English Support の勤務を経験した現役英語 SA11 名を対象とした。調査対象者の身分は学部生７人、大学院生３人、研究生１人であった。また、出身地域は、アジア、アフリカ地域であった。

2．3　調査方法

G00GLE フォームを用いてオンライン・アンケートを 2020 年８月に実施した。アンケートは以下の８セクションからなり、約 60 問であった。

§ 1.　Reasons for becoming an SA
§ 2.　Online vs. face-to-face sessions
§ 3.　About your ONLINE sessions
§ 4.　About your FACE TO FACE sessions
§ 5.　Conversation topics
§ 6.　About yourself (background)
§ 7.　About yourself (social life)
§ 8.　About yourself (IT skills)

2．4　結果

以下では、アンケート調査の結果について述べる。

2．4．1　対面式かオンライン方式か

対面式とオンライン方式のどちらが英語 SA である自分自身にとってよいか（質問Ⅰ）、また参加学生にとってはどちらが良いと思うか（質問Ⅱ）聞いた。その結果、英語 SA である自分自身にとって対面式の方が良いと回答した英語 SA は７名、オンライン式の方が良いと回答した学生は４名であり、参加者にとって対面式の方が良いと回答した英語 SA も７名、オンライン式の方が良いと回答した学生は４名であった（表３参照）。このことから、サービスを提供する側の英語 SA は対面式のほうが良いと考えていることがわかる。また、11 名のうち９名の英語 SA は自身にとって良い思う実施形態と参加学生にとって良いと思うものが一致している。ここから、自身にとってよいと思う方式を参加者にとってもよいと思ってしまう、あるいは参加者にとって良いと思う方式

を自分にとってもよいと思ってしまう可能性があることも示唆される。一方、GとHのSAにおいては、自身にとってと参加学生にとってとではよいと思う方式は異なると回答している。

２．４．２　英語SA自身の社会性と日本・日本語母語話者への適応とITスキル・SNSへの接触頻度との関連

筆者のうち２人は英語学習・留学アドバイザーであるが、その２人から見て対面方式を好む英語SAは社交性が高く、日本・日本語母語話者への適応度も高いと考えられたため、英語SAの社交性と日本・日本語母語話者への適応について以下の項目について５段階で回答を求め、社会性、適応性が高いと思われる回答に５、低いと思われるものに１を付したところ、以下の表のようになった。なお表中の「質問Ⅰ」と「質問Ⅱ」は前節の質問と同一である。

表３　対面式とオンライン方式の選好と日本・日本語母語話者への適応と社会性

SA	質問Ⅰ	質問Ⅱ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均
A	対面	対面	4	4	5	4	4	4	5	5	5	3	**4.3**
B	対面	対面	5	5	5	3	5	4	2	5	4	2	**4.0**
C	対面	対面	5	5	4	3	5	5	3	3	3	2	**3.8**
D	対面	対面	3	3	2	2	4	4	3	4	4	1	3.0
E	対面	対面	5	3	2	3	2	2	3	4	3	2	2.9
F	対面	対面	5	5	3	1	1	1	2	3	4	2	2.7
G	対面	オンライン	4	5	4	3	3	4	5	5	4	2	3.9
H	オンライン	対面	3	4	3	2	4	4	3	4	4	1	3.2
I	オンライン	オンライン	4	5	3	2	4	4	3	5	5	3	**3.8**
J	オンライン	オンライン	5	4	2	2	2	2	5	5	3	1	**3.1**
K	オンライン	オンライン	5	2	2	2	1	1	1	1	1	1	**1.7**

なお、質問は以下のとおりである。

1. Would you be interested in working in Japan in the future?
2. How many of your Japanese friends do you have the contact info for (including facebook and instagram)?
3. How many Japanese friends do you have that you get in touch with seldomly (about once every 2 or 3 months)?
4. How many Japanese friends do you have that you get in touch with frequently (at least once a week)?
5. I enjoy giving presentations in front of people.
6. I am good at giving presentations in front of people.
7. I get nervous when I talk to someone for the first time.
8. I enjoy meeting people.
9. I enjoy parties and get-togethers.
10. I prefer small get-togethers rather than big parties.

英語SAである自分自身にとってよいか（質問Ⅰ）、また参加学生にとってはどちらが良いと思うか（質問Ⅱ）が一致している英語SAのうち、双方に対面式を好むAからFと、双方にオンライン方式を好むIからKを比べると、社会性、適応性の高さがその選択に若干影響を与えているようである。しかしながら、調査人数が少ないため、統計的に有意であるとまでは言えない。

次に、ITスキル・SNSへの接触頻度について５段階で回答を求め、ITスキル・SNSへの接触頻度が高いと思われる回答に５、低いと思われるものに１を付した結果を表４に示す。

表４　対面式とオンライン方式の選好とITスキル・SNSへの接触頻度

SA	質問Ⅰ	質問Ⅱ	11	12	13	14	15	16	17	平均
C	対面	対面	5	4	5	4	3	3	5	**4.1**
B	対面	対面	4	4	5	3	5	3	4	**4.0**
A	対面	対面	5	4	5	3	5	1	3	**3.7**
D	対面	対面	4	4	5	2	5	1	5	3.7
E	対面	対面	4	4	5	4	4	2	3	3.7
F	対面	対面	3	4	5	1	3	2	5	3.3
G	対面	オンライン	5	4	5	4	5	5	3	4.4
H	オンライン	対面	5	4	4	3	5	1	5	3.9
J	オンライン	オンライン	5	4	3	3	3	5	5	**4.0**
I	オンライン	オンライン	5	4	3	3	5	3	4	**3.9**
K	オンライン	オンライン	5	4	5	2	3	1	5	**3.6**

なお、質問は以下のとおりである。

11. I know how to use Zoom and am comfortable using it.
12. I am good at searching for information online.
13. How often do you check Facebook or Instagram?
14. How often do you update your Facebook or Instagram?
15. How often do you video chat with friends and/or family who live in other countries?
16. How often do you video chat with friends and/or family who live in Japan?
17. I like taking online classes using zoom.

英語 SA である自分自身にとってよいか（質問Ⅰ）、また参加学生にとってはどちらが良いと思うか(質問Ⅱ）が一致している英語 SA のうち、双方に対面式を好む A から F と、双方にオンライン方式を好む I から K を比べると、IT スキル・SNS への接触頻度の高さがその選択にほぼ影響を与えておらず、関連性がないと言える。表３と表４の平均値の分布から見ても IT スキル・SNS への接触頻度の高さが対面式とオンライン方式の選好に影響を与えていないのは明らかである。

２．４．３　対面式・オンライン方式のメリットとデメリット

対面式・オンライン方式にそれぞれどのようなメリットとデメリットがあるか、英語 SA 自身と参加者の２つの観点から自由記述式で回答を求めた。その回答文全文を英文解析支援アプリ Easa（http://lanevok.com/easa/solve.php）にかけ、それぞれの質問項目の頻度を求めた（表５参照）。

表５　対面式・オンライン方式のメリット・デメリット記述式回答における語の出現頻度

オンラインのメリット				対面のデメリット				オンラインのデメリット				対面のメリット			
SA		参加者		SA		参加者		SA		参加者		SA		参加者	
students	3	search	3	students	5	shy	4	students	4	time	3	face	4	time	3
period	2	join	3	talk	3	face	4	hard	3	experience	2	voice	2	friends	3
search	2	internet	2	make	2	students	3	connection	2	limited	2	students	2	environment	2
time	2	shy	2	talking	2	campus	2	problem	2	meeting	2	play	2	people	2
easy	2	time	2	face	2	feel	2	facial	2			language	2	make	2
face	2	session	2			talk	2	bit	2			interactions	2	talk	2
online	2	students	2			people	2	talking	2			body	2	explain	2
conversation	2	conversation	2			speak	2	play	2					board	2
topics	2					time	2								
internet	2					phone	2								

しかしながら、語の出現頻度では特徴が明らかにならなかったため、回答文の内容に対して以下の 14 のラベルを付与した（表６参照）、出現頻度を求めた（表７－１、７－２参照）。

表６　回答文の内容に対して付したラベル

1	会話の進め方、発話の促し方など運用について
2	参加者の態度・姿勢について
3	場の雰囲気・距離感について
4	実施場所・移動の有無について
5	トピックの広がりと深度
6	セッション中のネット検索について
7	インターネット接続や音声トラブルについて
8	参加者の人数・受け入れ人数について
9	実施時間について
10	表情・ボディーランゲージのわかりやすさについて
11	Zoomの機能について
12	アイコンタクト・相手の顔を見て話す緊張感について
13	新型コロナウイルス(COVID-19)感染予防について
14	SA自身のスキルについて

表７－１　出現頻度上位

		1	2	3	4	5	6	7
オンラインのメリット	SA	2	0	0	5	1	5	0
	参加者	3	3	0	5	1	3	0
対面のデメリット	SA	8	2	0	0	2	2	0
	参加者	0	5	4	3	0	1	0
オンラインのデメリット	SA	4	1	1	0	4	0	4
	参加者	3	1	2	0	1	0	3
対面のメリット	SA	0	2	3	0	3	0	2
	参加者	0	4	7	0	0	0	0
	合計	20	18	17	13	12	11	9

表７－２　出現頻度上位

		8	9	10	11	12	13	14
オンラインのメリット	SA	1	1	0	2	1	1	1
	参加者	2	0	0	0	0		0
対面のデメリット	SA	4	1	0	0	0	1	0
	参加者	0	2	0	0	1		0
オンラインのデメリット	SA	0	0	2	0	0		0
	参加者	1	1	0	1	0		0
対面のメリット	SA	0	0	3	0	0		0
	参加者	0	1	0	0	0		0
	合計	**8**	**6**	**5**	**3**	**2**		**1**

上記 14 のラベルを付与し、その結果以下のことが明らかになった。

・対面式のメリットについては、主に参加者にとってのメリットについて述べている一方（ラベル２，３，９)、オンライン方式のメリットについては、主に SA 自身にとってのメリットについて述べている（ラベル６，９，11，12，13，14)。

・対面式のメリットは距離感、ライブ感、雰囲気であり、オンライン方式のデメリットでもある（ラベル１，２，３，12)。

・オンライン方式のデメリットは接続の問題である（ラベル７)。

・「英語 SA 自身の IT スキルとオンライン方式のメリットとデメリットに関係がある」とは考えていない（ラベル11，14)。

以上、述べてきたように、English Café と English Support をオンライン方式ではなく、対面式で行った方がよいと考えている英語 SA が多く、その理由にで、距離感、ライブ感、雰囲気など主に参加者にとってのメリットを挙げていることがわかった。また、英語 SA 自身の IT スキルや SNS への接触頻度と対面式とオンライン方式の選好の間には関連性がない一方、社会性、適応性の高い英語 SA は対面式を好む可能性も示唆された。

３．英語学習・留学個別相談の利用者層調査

本節では、英語学習・留学個別相談が対面式からオンライン方式へ変わったことによる利用者層の変化について検討する。

３．１　英語学習・留学個別相談 －対面式からオンライン方式へ－

英語学習・留学個別相談は、学生が自律的に英語学習ができるようになることを目的に、本学が 20 英語学習・留学アドバイザーが常時２名態勢で行っている。１回 30 分の枠で、英語学習や留学に関する目標設定や学習計画、動機付け、学習の継続のために必要なことなどについて本学学生に対して個別に（１対１で）アドバイスしている。その相談内容は、TOEIC® テストや TOEFL® テスト、IELTS などの各種試験対策から、スピーキングやライティングといった特定の英語スキルの向上について、留学に向けてなど多岐に渡っている。2020 年２月までは対面式で行っていたが、2020 年３月以降は Zoom ミーティングを用い、オンライン方式で実施している。それ以外は特に実施方式・実施場所（山梨大学甲府キャンパス内）に違いはなかった。2019 年３月は予約枠 266 に対し 128 枠の「英語学習・留学個別相談（対面式)」を実施し、2020 年３月は予約枠 205 に対し 121 枠の「英語学習・留学個別相談（オンライン方式)」を実施した。実施数だけを見ると 2020 年３月のほうが少ないが、稼働率で見ると 2019 年３月は 45％、2020 年３月度は 59％となり、対面式よりもオンライン方式のほうが 14 ポイント高かった。

３．２　調査対象者

2019 年３月（2018 年度３月）の「英語学習・留学個別相談（対面式)」[3] と 2020 年３月（2019 年度３月）「英語学習・留学個別相談（オンライン方式)」の全利用者（学生のみ）を調査対象とした。

３．３　分析方法

まず、利用者の属性の概要を調べ、次に「R 言語（R x64 4.0.2)」で「決定木分析」を用いて説明変数の検証を行った。2019 年３月「英語学習・留学個別相談（対面式)」と 2020 年３月「英語学習・留学個別相談（オンライン方式)」を目的変数とし、利用者の属性（性別、専攻、学年）と居住地、利用目的（TOEIC 対策、TOEFL/IELTS 対策、英検などの英語資格試験に関する事柄、特定の英語スキルに関する学習相談、留学に関する相談、英語フリートーク、その他)、利用回数（３月のみの利用回数と３月以前に利用があったかどうか)、留学に関しての興味や経験（留学経験の有無、滞在月数、半年以内に留学へ出発する予定があるか、大学生 / 大学院生の間に留学を希望しているかどうか）の計 17 項目を説明変数として分析を行った。

[3] 実際には 2018 年度３月は株式会社アルクから派遣された英語学習アドバイザー３名（男性１名・女性２名）が、常時２名体制で英語学習相談や留学相談を個別に（１対１で）アドバイスし、「個別相談」と呼んでいた。2019 年度４月から本大学職員２名（女性２名）が同様のサービスを提供しており、英語学習相談や留学相談をベースに、英語資格試験対策にも力を入れ、呼称を「個別相談」から「プライベート英語レッスン」と変えている。

3．4　結果

以下､利用者の属性の概要と決定木分析の結果を示す。

3．4．1　利用者の属性の概要

以下に利用者の属性の概要を示す。2019 年 3 月は延べ 128 人（異なり 26 人)、2020 年 3 月は延べ 121 人（異なり 24 人）の利用があった。図 2 は男女比、図 3 は学年、図 4 は専攻を示している。なお、図中の数字はいずれも異なり人数を示す。

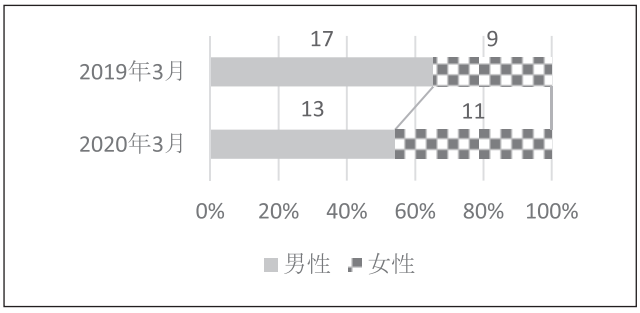

図 2　利用者の属性の変化　―性別―

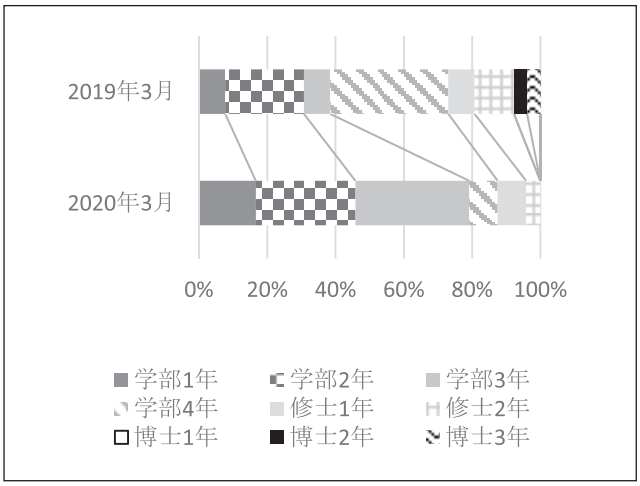

図 3　利用者の属性の変化　―学年―

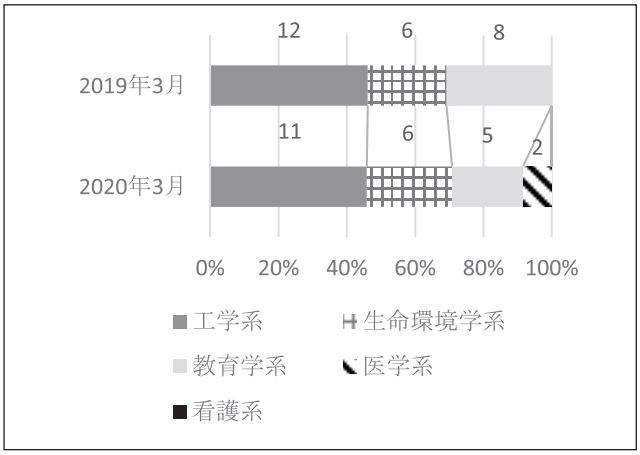

図 4　利用者の属性の変化　―専攻―

図 2 から、2020 年 3 月は女性の利用が増えたことがわかるが、2019 年 3 月は男性の英語学習アドバイザーが在籍していたので、男性が利用しやすかったという側面もあったのではないかと考えらえる。また、図 3 から、2020 年 3 月の方が学部生の利用が多く、特に学部 3 年生の利用が大きく増え、学部 4 年生の利用が減少したことがわかる。学部 4 年生にとって 3 月は卒業シーズンであり、2019 年 3 月の対面式の時は、最後の最後まで英語学習を頑張ったり、別れを惜しんだりする学生の姿も見られた。さらに、図 4 から 2019 年 3 月は医学系・看護系の学生の利用が全くなかったが、2020 年 3 月のオンライン方式では利用する学生も 2 名ではあるが出てきたことがわかる。これは「英語学習・留学個別相談」を実施している場所が山梨県甲府市内であり、医学系・看護系の学生が多く居住する山梨県中央市から離れていることに起因すると思われる[4]。一方、工学系や生命環境学系の学生は対面式でもオンライン方式でも利用数の割合に変化がなかった。教育学系の学生はオンライン方式になると、利用者が減少した。このように、コロナ禍の前（2019 年 3 月）と後（2020 年 3 月）とでは「英語学習・留学個別相談」の利用者層に違いが見られることがわかる。

3．4．2　利用者層の変化

前節では利用者層がコロナ禍前後で変化したことがわかったが、本節では決定木分析によって、どのような属性、あるいは利用目的などの要因のうち、何がもっとも影響を与えたか検討する。説明変数を表 8 に、決定木分析の結果を図 5 に示す。

表 8　説明変数（17 項目）

1	Gender	性別
2	Address	住所（甲府市内に住んでいるか）
3	Dept	専攻
4	Year	学年
5	First	3月に初利用かどうか
6	HowMany	3月に何回利用したか
7	TOEIC	TOEIC対策での利用であったか
8	TOEIEL	TOEFL･IELTS対策での利用であったか
9	STEP	その他英語資格に関する質問（英検など）だったか
10	SKILL	特定の英語スキルに関する相談だったか
11	SA	留学関連の相談だったか
12	FREE	英語フリートークでの利用だったか
13	Other	その他の目的でのりようだったか
14	Saex	留学経験はあるか
15	Months	留学経験の滞在月数
16	in6months	6か月以内に海外へ出発するか
17	plan	留学予定があるか

[4] 前述したが、「英語学習・留学個別相談」を実施している場所は山梨大学甲府キャンパス（甲府市内）であるが、医学系・看護系の学生は医学部キャンパス（中央市）周辺に居住していることが多い。キャンパス間の距離は約 10Km で、交通の便はあまりよくない。

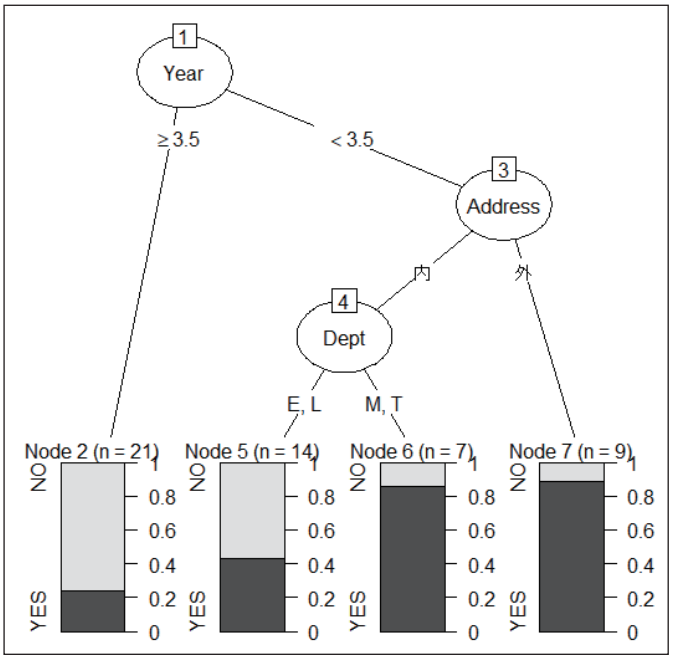

図５　利用者層の変化に影響を与えた要因
（オンライン方式の英語学習・留学個別相談を利用する層）

図５からわかるように、利用者層の変化に影響を与えたのは「学年」、「居住地」、「専攻」である。中でも「学年」がもっとも影響を与えており、学年が 3.5 以上、つまり学部４年生以上であれば、オンライン方式の英語学習・留学個別相談を利用しない確率が高くなることがうかがえる。次に、「居住地（甲府市内に住んでいるか否か）」が影響を与えており、甲府市外に住んでいる学生であれば、オンライン方式の英語学習・留学個別相談を利用する確率が非常に高くなることがわかる。一方、甲府市内に住んでいなくても、医学系、または工学系の学生であれば、オンライン方式の英語学習・留学個別相談を利用する確率が非常に高くなることもわかる。しかしながら、甲府市内に住んでいる、教育学系、生命環境学系の学生の場合は、オンライン方式の英語学習・留学個別相談を利用する確率がそれほど高くならないことが明らかになった。このように利用者の「属性」に関する要因が強い影響を与えている一方で、利用目的に関する項目は大きな要因とならないことが明確になった。オンライン方式に切り替えたことで利用する確率が上がった層（学部３年生以下、甲府市外在住）がいる一方で、利用を敬遠するようになった層（学部４年生以上）がいると推測されることから、オンライン方式を取り入れつつも、対面式の英語学習・留学相談も徐々に増やしていく必要があると言える。

４．　まとめと今後の課題

本稿では、サービスを提供する「学生」（英語 SA の意識調査）と、サービスを受ける「学生」（英語学習・留学個別相談の利用者層の変化）の２つの側面から分析した。その結果、英語 SA の多くは English Café と English Support をオンライン方式ではなく、対面式で行った方がよいと考えており、その理由にで、距離感、ライブ感、雰囲気など主に参加者にとってのメリットを挙げていることがわかった。また、英語学習・留学個別相談をオンライン方式に切り替えたことによって、利用者層に大きな変化があり、その要因が主に学年や居住地など利用者自身が変えられない事柄にあることが明らかになった。しかしながら、残された問題もある。英語学習・留学個別相談を受けた学生の意識や、English Café と English Support に参加した学生の意識については調査できなかった。これらの問題については、今後調査を行い、明らかにしていきたい。

参考文献

［1］ 立教大学経営学部データアナリティクスラボ．オンライン授業に関する学・意識調査．2020
https://www.rikkyo.ac.jp/news/2020/09/mknpps000001bg3b-att/report.pdf（2020 年 9 月 30 日参照）
［2］ 立正大学．オンライン授業に一定の教育効果～対面授業時のスコアと比較分析．2020「オンデマンド配信型」は大幅にスコア上昇～
http://www.ris.ac.jp/pressrelease/2020/press_001.html（2020 年 9 月 30 日参照 ）

謝辞

本調査に快く協力してくれた英語 SA の皆さん、G-フィロスの管理・運営にご協力くださっている山梨大学国際交流センター・国際企画課の方々に心から感謝の意を表したい。